

第 39 回日本重症心身障害学会学術集会に参加してきました。

9月26日(木)～27日(金)栃木県宇都宮市「栃木県総合文化センター」開催

テーマ「重症心身障害児者と共に生きる－重症心身障害児医療における職種
間連携」

故大谷藤郎先生（元日本重症心身障害学会名誉会長、
国際医療福祉大学初代学長）の「病む人も障害のある人も、
元気な人も、お互いにお互いを尊重しながら

『共に生きる社会』の実現」という遺志を継ぎ、
これからの重症児医療・支援を考えていくプログラムでした。

会場にはサイバニクスを駆使した装着型のロボットスーツ

「HAL」や、在宅用の携帯しやすい人工呼吸器 BCV やパーカッションベンチ
レーター、RTX レスピレーター、東日本大震災の経験から卓上コンロ用カセットボンベ2本を用いる
自家発電機や足踏み式吸引器なども展示されていて、体験や説明してくれました。障害者の方が
織った服とモデルの障害児のコラボによるファッションショーや、手作り工房『のろぼっけ』の
障害を持つ織作家たちの喜積織（きせきおり；それぞれが生きてきた「軌跡」これから起こす「奇
跡」という意味を重ねて命名されたそうです）の布も展示されていました。

この学会には医師や看護師だけでなく、OT・PT・ST や栄養士、保育士、療育指導員、療養介助員
など重症心身障害児者医療に関わる多くの職種の方や家族が参加していました。当院も3題発表
しました。内容は身近なものが多くとても活発な討議がされていて皆常に安全でより安楽な日常
生活を少しでも長くより良い状態で過ごしてもらいたいと真剣にまた意欲的に参加され
ていてその熱意が伝わってきました。発表者はもちろん参加者全員が発表内容を共有でき、明日
からの実践において新たな気づきが得られるような具体的な質問が多く出されていてとても参
考になり、また元気をもらった学会でした。



院内認定重症心身障害児・者専門看護師
横澤千代子

